平和について

掛川市立原野谷中学校二年
戸塚　杏南

私が初めて戦争を知ったのは、小学生の頃でした。当時の私は、日本が平和なのに戦争をしているとは考えられませんでした。戦争は、知れば知るほど怖く、恐ろしいものでした。

私は気になって、その本を見ると小さい子どもから大人まで多くの人々が苦しんでいるのを知りました。大切な人ともう会えなくなることや、胸が痛くなりました。小学校の教科書にも、戦争の内容があることはどんなに辛いことか、戦時中は、食料も不足し、今、私達がご飯をたくさん食べられていることの幸せを実感しました。はだしのゲンという漫画も、小学生の頃に見ました。とんできたガラスが体中に刺さったり、火に追われて水槽に逃げ込んだ死体があったり、子どもを守ろうとしてだきしめている母親の死体があったり

と、とても衝撃的でした。SNSで見た広島平和記念資料館では、言葉を失うほどのものが飾られていました。戦争の映画のあの花が咲く丘で君とまた出会えたらという作品では、大切な人と嫌でも別れなければいけない辛さがかかれていました。戦争中に、たくさんの人がこのような思いをしていると思うと、やっぱり胸が痛くなります。生きては帰れない特攻では、多くの若者の命を奪っていました。中学生になっても、戦争のことを学びました。国語の授業で火垂るの墓を見たときは、空襲警報の音が怖かったです。主人公の清太は私と同じ年で、四歳の節子は私の弟と同じくらいです。もし今、戦争になったとしたら、私は自分のことで精一杯だと思います。そもそも、家族の中で私と弟だけ生き残ったとして、私はショックで生きること自体を辞めたいと思うと思います。私は、友達とも戦争のことを時々話します。もし、逃げている時に誰かが助けを求めていたら助けるのか、家族

が家の下敷きになっていたらどうするか、な
ど、考える時はいつも涙が出てきます。考
えるだけで泣いてしまう戦争というものはど
れだけ怖いんでしょうか。戦争を目の当たり
にした人々がどんな思いをしたかは、私には
考えられません。これからは、戦争を知って
いる人々がどんどんいなくなっていきます。
私は日本人だからこそ、戦争の辛さをわから
なければいけないのではと思います。八十年
経った今でも苦しめられている方々がいるの
を忘れてはいけません。そして、戦争をして
何の意味があるのか私には分かりません。こ
の作文でも、戦争について良いことは書かれ
ていません。戦争は、怖くて、恐ろしくて、
辛いものです。でも、それを知っていても戦
争になることがあります。世界中から戦争が
なくなってほしいと心の底から思います。私
はいつ世界が平和になったり、恐ろしくなっ
てしまったりするか分からないので、今を全
力で楽しく生きたいと思います。そして、生

きたくても生きれなかった特攻の方々や、被害を受けた方々の分まで生きたいと思います

20 × 20